

愛労連

愛知県労働組合総連合
名古屋市熱田区沢下町 8-18
労働会館第 2 ビル
TEL 052-871-5433
発行人 阿 部 精 六
9 月号 1996年 9 月26日

愛労連第15回定期大会 〈特集号〉

総対話
大規模アンケートで

壮大な共同を！



愛労連第15回定期大会

九月七日・八日、愛労連は第十五回定期大会を名古屋市中区役所ホールで開催し、傍聴を含めた約一百人が参加。大会では、九七年度運動方針などを決定しました。

大会冒頭に井上利雄・愛労連議長は、これまでの奮闘が「愛労連の存在をますます輝くものにしていく」ことや、すべての労働者を対照とした運動の必要性と共同の可能性について強調しました。

代議員四十四名からの発言では、①リスト「合理化」攻撃を許さぬたたかいや、春闘で運動が発展していること、②総選挙を正面に受けとめ、国でも地方でも政治を革新する決意、③大規模アンケートで、全労働者に働きかけていくことの重要性、④全組合員の英知を結集し、センターとしての役割をますます発揮することなどについて、いきいきと語られました。

総選挙！国政革新で要求実現を

議長あいさつ



井上議長

要求でも組織でも多数派に

この一年で、新しい仲間
に東海地域法律関連労働組合愛知支部の仲間を迎え、愛労連は二十四単産と二十五地域労連で構成され確かな砦を築ける。九六春闘では、住専、沖縄・安保など

えている。私たちは要求実現、組織強化、共同の前進で絶好のチャンスを迎えている。愛知の全労働者は、三百九万人だが、組織労働者は、二八％。圧倒的が未組織という状況。全労連は

の政治を実現する絶好のチャンス。公約を破って、政党助成金で血税をかすめ取っていく政党と政治家に厳しい審判を下し、総自民党化の悪政を政治革新していくため、大いに職場で風を

代議員の発言（要旨）



年金者組合
中川代議員

みなさんの絶大なバックアップで第十回高齢者大会は延べ八千三百人の参加で立派に成功させることができた。ありがとうございました。

予想を超える労働者の参加と、要員として献身的な奮闘に、組織された労働者階級こそが世の中を変えて行く力だということを実感した。引き続き、年金者組合も高齢者問題、社会保障問題の共同のつなぎ役として奮闘する。



東三河労連
尾崎代議員

東三河での九六春闘の結果は、「連合」組合を含めて中央と三千百円以上の差がある。労働組合組織率が一八％台ということが低賃金や劣悪な労働条件に現れている。未組織労働者の組織化に全力をあげなければならぬ。

東三河労連では、一人でも入れる労働組合の代表で組織化委員会を設置しているが、愛労連として具体的な方針が必要ではないか。組織拡大で、一万人東三河



婦人協
上山代議員

自治労連婦人部では、六月二十九日から三十日にかけて自治体に働く婦人の全国集会を行った。

開催県として実行委員会を結成した。半年間のとりくみで、婦人部が強化された。若い仲間の奮闘が目立ったのと同時に、瀬戸市職では婦人部が結成される。この他にも結成の準備がされている。自治労連婦人部は元気です。

人間らしく生き働くための共同ひろげよう

97年度の新役員です よろしく願います

議長		副議長		事務局長		事務局次長		幹事		会計監査	
井上	利雄（自治労連）	坂崎	進（自治労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
青山	一雄（愛知国公）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
土井	照雄（港地区労）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
見崎	徳弘（愛高教）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
阿部	精六（全国一般）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
伊藤	むつを（建設一般）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
永井	和彦（自治労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
鶴野	武（タクシー協議会）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
牛田	正美（全印総連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
大橋	路代（婦人協議会）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
加藤	伸二（愛知国公）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
加藤	勝（名中センター）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
河井	孝徳（地域労組きずな）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
国村	忠文（全国一般）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
駒田	伝雄（年金者組合）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
桜井	善行（西三南労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
佐藤	利和（全動労）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
末広	謙三（検数労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
鈴木	正明（愛建労）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
田上	光徳（自治労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
谷藤	賢治（運輸一般）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
千葉	祐二（東三河労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
根村	浩二（JMIU）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
平出	暁（福保労）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
平田	茂（尾中地区労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
本多	一郎（生協労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
的場	忠則（建設一般）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
安藤	三夫（愛知国公）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
水田	清一（瑞穂区労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）
山田	喜久雄（銀産労）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）	加藤	増美子（医労連）

【三面からの続き】

全国一般との共同だけでは大きな春闘相場にはならない。愛労連の指導性を発揮してほしい。

また、ILOの条約批准と、すでに批准されている条約の活用をすすめる運動も大切になっている。



愛知県公
中村代議員

公務にも、年俸制を導入することが露骨に示されるようになっていく。ともにがんばっていききたい。



愛知県公
伊藤代議員

全国一般との官民共同春闘は、四年間とくんできた。これまで、幹部だけの

とりくみだったが、九六春闘では二百名の共同集会も成功させた。民間の大幅賃上げがない限り、公務員の賃上げはすすまないで、

裁量労働制は、一部の業種ですでに導入されているが、ホワイトカラー労働者全体へと狙われている。また、賃金は労働時間に関係ない賃金体系が変質されようとしている。これが年俸制や能力給と結びつば、労働者間の激烈な競争になる。



健康一般
夏目代議員

国公職場も、研究員への短期有期雇用契約や裁量労働制の導入が宣言されており、公務員にとっても死活問題である。民間にも大胆に打って出てがんばる。

健康アンケートにとりくんだ。結果をみると長時間労働で健康破壊がすすみ、精神面への影響も大きく、交通事故の多発につながっている。週四十時間制が導入されるが、残業代を増やさないための変形労働時間制が持ち出されようとして



青年協
武藤代議員

いる。これらを許さず、未組織の組織化を重視してがんばる。

青年労働者をめぐる状況が深刻化する中で、職場をやめようと思ったり労働組合に展覧を持てない青年が増えている。しかし、自らが立ち上がったたたかう青



大会終了後、栄で行われた沖縄県民投票に連帯する模擬投票では、地位協定見直し・米軍基地縮小に賛成219名、反対3名と圧倒的な結果。

総括答弁



阿部事務局長

組織と運動の発展を確信に
英知を結集して前進しよう！

考え、たたかうときには敵を明確にする。こと、仕事を活動を通じての専門性を発揮していくことの大切さも明らかにしてきた。みんなで力を合わせてがんばろう。

さまざまな解明すべき課題があるが、九七春闘方針の策定にいかしていききたい。また、要求をねりあげていくうえで、必ず大規模アンケートを成功させ、名実ともに要求の多

数派になっていく。③国鉄闘争では、国民の財産を奪った分割民営化や赤字の増大、一千四百七十七名の解雇を許さない旗を掲げて奮闘してきたことが今日の情勢をつく

の要求を結合することで勝利の活路を見いだしている。さらに、現在の雇用情勢をおさえてがんばる。⑤活動改善の問題については、役員や一部の活動家だけでなく、六万七千人ががんばっていきけるようにしたい。愛労連としても、体制を強化して期待や希望に応えられるようにしていく。この他にも、労働法制の問題など運動方針の構えについても指摘をいただいたが、幹事会としても今後の運動にいかしていくので、ともにがんばろう。



愛労連
稲葉代議員

愛治労組はみなさんの支



婦人協
伊藤代議員

均等法が制度化されて十年経つが、職場の実態は、コース別人事の導入や昇任・昇格の面でも変わっていない。また、女性の過労死など悪化している。均等法オールドを結成して、未加盟にも出かけているが、どこも深刻な実態。十一月にはシンポをおこなう。共同をひろげて組織を強くしていきたい。総選挙でもがんばる。



自治労連
中川代議員

西尾市政のもとで、名古屋の在宅福祉はビリから二番目。介護に疲れての自殺など深刻な事態。一方で、新南陽工場のようにゼネコン言いなりのムダ使いがある。市民の生活を守り、職員の働きがいを取り戻すため



自治労連
鈴木代議員

自治体リストラと地方行政は、くらしも平和も破壊する攻撃。これをすすめるために労使賃行破壊、交渉拒否など組織破壊攻撃も行われている。総選挙は、住民のいのちとくらしを守る自治体労働者として全力でがんばる。

大規模アンケートは、病院の患者や保育園の父母など、住民とのつながりもいかして五万人をやりきる決意を固めあった。要求組織運動で多数派をめざし、全労連・愛労連が春闘の主導権を握るため奮闘する。



西三南労連
桜井代議員

全労連・愛労連結成以降の到達点を客観的に見る必要がある。地域には「地域労連の活動がいやでたら



名中センター
堀代議員

金融職場では、規制緩和はすでに終了し、弱肉強食社会に突入している。証券では、管理部門の全面委託などで十七万人から十二万人弱へと人員削減。膨大な利益をあげてもベアゼロという「21世紀戦略」の先取りがおこなわれている。損保は、生保との乗り入れで過酷な労働が強いられ、倒れる労働者も増加している。しかし、立ち上がる労働者も生まれてきている。支援をお願いする。



一宮地区労連
八橋代議員

鈴木過労死裁判では、みなさんの協力で三百名の会員と一万二千名の署名を集めることができた。団体定期保険の問題は、マスコミも問題にし、一部改善の保険が出されたが、依然として労働者の命を食いつくす点では変わっていない。愛労連や地域労連でも調査し、未加盟組合・職場に知らせ共同をひろげていく必要がある。



シリーズ
愛知の争議
勝利に向かおう

明治乳業争議団

都労委の不当命令許さず
職場の民主化へ全力

九月十一日、東京都労働組合は千葉県の明治乳業市川工場の三十二名の「賃金・昇格差別、不当労働行為救済」の申し立てをすべて却下・棄却する不当命令を行いました。この事件は、「大合理化」を強行しようとする明治乳業が、労働組合の活動家を敵視し、全国的な差別と分断の攻撃。市川工場では「明朋会」な

ことからも明白です。争議団（追加申し立ての三十二名を含む）及び支援する会はこの不当命令を許さず、断固たたかう決意を固めています。そして、会社に対し、不当労働行為政策の即時撤回、賃金・職分差別の是正を求めて、引き続き運動を強めていきます。みなさんのご支援を。

援で職場に戻ることができなかった。不当な攻撃があるが、引き続きがんばる。組合員を主人公にした運動の構築が問われている。職場の状況は厳しいが、青年の変化はある。「原点にかえった運動が必要」と単組では学習会が増え、合理化にも粘り強くたたかっている。こうした到達をひろげ発展させ、職場の要求と運動を制度闘争に結びつけていくことが大切だ。

にも名古屋市長選で勝利しなればならない。全国では革新のうねりがある。保健所統廃合の問題や「あんき」の運動なども地域で前進している。がんばろう。

全労連・愛労連結成以降の到達点を客観的に見る必要がある。地域には「地域労連の活動がいやでたら